

おしりの病気(痔)について、切らずに 治す痔の手術(ALTA療法)を中心に。



津島市民病院
乳腺外科部長
不破 嘉崇

痔＝「痛い」「血が出る」といったイメージを持つ方が多いと思います。実は出血もなく、痛みもない痔もあるのです。痔＝はずかしい、手術しなければ治らないなどと思われている方もいるようです。しかし、いぼ痔の場合、手術をするのは全体の1～2割程度です。症状が軽い程、簡単な処置で改善します。辛い痛みや治療を避けるため、異常を感じたら早めの受診がポイントです。安心してご来院頂けるよう、診察の流れや治療内容を簡単にご説明します。

【診察について】

最初に指診(指の診察)で、切れたり腫れたりして痛むところや、肛門にできたしこり、直腸のしこりなどを調べます。次に肛門鏡と呼ばれる金属の筒を肛門にゆくりと差し込み、中を観察します。

【痔の種類】

痔は大きく分けて3種類です。①いぼ状のはれができる「いぼ痔＝(内・外痔核)」。②肛門が切れる「きれ痔(裂肛)」。③肛門に膿のトンネルができる「あな痔(痔ろう)」の3種類です。



【いぼ痔(内痔核)の治療】

①保存的:内痔核は90%近くが手術をせずに様子を見ます。薬を使用する他、生活習慣の改善で自然と治るのを待つ方法です。初期段階であれば、生活習慣を改善(バランスのとれた食事、排便を我慢しない、長時間いきまない、下半身を温めて血行をよくするなど)するだけで快方に向かう方も多いです。

②手術:痔の治療では下半身麻酔で行う痔核切除手術が主流で、1週間以上の入院が必要でした。しかし、近年、注射により内痔核を治療する「ALTA療法」が登場し、いぼ痔などタイプによっては日帰り、1泊入院での治療も可能になりました。また、ALTA療法と手術の併用療法も普及しています。排便時に出てくる、普段から出たままになっている、出血があるような内痔核に効果があります。内痔核は血がたまっていた状態ですので注射により内痔核を固め流れる血の量を減らします。この段階で出ていた部分はかなり小さくなります。さらに時間が経つと伸びていた組織がゆっくりと元の状態にもどっていきます。個人差はありますが約1～2カ月ほどをみていただければ良いでしょう。実際注射を行う場所も痛みを感じる神経が無い場所なので、おしりに注射なんて怖いと思われがちですが治療は比較的簡単に終わります。

ALTA療法の一番の特徴はやはり、患者様の負担の軽減。身体への負荷が少ないのはもちろん、日帰り、または一泊入院で済むことです。仕事を休めない方、家をなかなか空けられない方には良い治療法だと思います。

【おわりに】

おしりは大切な臓器です。「恥ずかしがらずにもっと早く来ればよかった」と思っていたいただければ幸いです。

